



愛知駅伝 雨の中力走

愛知万博メモリアル第四回愛知県市町村対抗駅伝競走大会が十二月五日、愛・地球博記念公園（長久手町）で開かれ、町を代表して出場した九人の選手たちは強い雨が降り続く中で力走し、五位入賞を果たしました。

一本のタスキに みんなの思いをつなぐ

駅伝競走は公園内の九区間二九・七キロ周回コースで行われ、県内六十市町村が市と町村の部に分かれて、小学生から大人までの年代の「男女混成九人」でチームを作り、健脚を競いました。

阿久比代表チームは、前半から町村の部参加二十五チーム中、十位前後をキープし、終盤で徐々に順位を上げていきました。最終ランナーの九区にタスキが渡った時点で六位となり、最後は大接戦の末、順位を一つ上げ五位でゴールし、昨年に続き見事入賞を果たしました。

アンカーの平井慎太郎さん（一般



全力を尽くし 5位入賞



男子の部）は、「素晴らしい結果が残せたのも、皆さんの応援のおかげです」と話し、チームを率いた鈴鹿敦監督は「二年連続で入賞できたことは本当にうれしい。よく頑張ってくれました。雨が降る中、選手をサポートしてくれたスタッフにも感謝します」と選手たちの健闘をたたえ、スタッフの労をねぎらいました。

強い雨が降り、肌寒い最悪なコンディションでの駅伝競走となりましたが、選手たちは世代を超えた一本のタスキにそれぞれの思いをつなぎ、「自分たちのまち」阿久比町のために頑張ってくれました。